TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

これが神のやり方-神さまが計画された救いの方法- 神を賛美しましょう！

ローマの信徒への手紙 4:13-25

2026年8月15日 & 16日
余沢 武 牧師

I. はじめに

こんにちは。先週は、素晴らしい VBS が行われました。奉仕してくださった皆様に感謝いたします。どのような形でも VBS で奉仕された方はどうぞお立ちください。皆様の奉仕に感謝します。子どもたちがイエスと一緒に歩む中で成長していけますように続けて祈りましょう。

ローマの信徒への手紙で、私たちはみな神を創造主として認めることに失敗してきたことを学びました。神は私たちをそれぞれの欲望に任せられ、私たちは皆罪の中に生きることを選んだのです。そして裁きを受けるに値する者となりました。

しかし今や、律法によらずに、神の義、すなわち神の基準にかなう道が、イエスへの信仰を通して明らかにされました。これはユダヤ人と異邦人の両方へ示されています。また、私たちはこのことがすでにアブラハムの例を通して示されたことも学びました。

アブラハムは遠くからかすかに見たのです。自分の子孫であるイエスが、人々の罪を取り除く完全な生贄となることですべての人々を祝福されることを、そして信じる者たちにご自身の義を与えられることを。アブラハムは先に福音を見て、信じました。そして信じるすべての人の父となりました。

今日はアブラハムの信仰に目を向け、それが何ゆえに特別なのかを見ていきましょう。まず祈りましょう。

II. 神を賛美しましょう！

(1) 律法 VS 信仰

ローマの信徒への手紙4章 13～16 を見てみましょう。

「[13] 世界の相続人となるという約束が、アブラハムとその子孫に対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるのです。[14] もし律法に頼る者が相続人であるとするなら、信仰は空しくなり、約束は無効になってしまいます。[15] 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。[16] 従って、相続人となることは、信仰によるのです。こうして、恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。アブラハムは、神の前で、私たちすべての者の父であって」

「律法に頼る者」とは、律法に従うことによって「神の義である民」になろうとしたユダヤ人のことです。「相続人」とは救われたアブラハムの子孫、つまり「神の民」として受け入れられ、神の御前である天国に入る民です。

パウロが教えているのは、私たちが「神の義なる民」として受け入れられるのは、アブラハムのような信仰だけであり、律法を守ることではない、ということです。そうでなければ、それほど大した約束にはなりません。

もし誰かが、「入学試験に合格すれば、一番の名門校に入れてあげることを約束する」と言っても、それほど大した約束ではありません。その入学試験こそが、一番苦労するところだからです。

もし神が、「もしすべての律法を守れるなら、天国の民にしてあげることを約束する」と言ったら、それほど大した約束にはならなかったでしょう。すべての律法を守ることは誰にもできないからです。どちらかと言えば、私たちは律法を守ることに失敗しますので、神の怒りの対象になるだけです。

しかし、その約束が信仰によるものであれば、もし神が「アブラハムの子孫であるイエスがあなたがたの罪を取りのぞき、神の義を与えるために生贄となったことを信じれば、あなたを天国の民とすると約束する」と言われるなら、それは素晴らしい約束です。

(2) 望みえないものに望みを抱く

では、どのように信じれば良いでしょうか。17～19節です。

「[17]『私はあなたを多くの国民の父とした』と書いてあるとおりです。彼はこの神、すなわち、死者を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのです。[18] 彼は、望みえないのに望みを抱いて信じ、その結果、多くの国民の父となりました。『あなたの子孫はこのようになる』と言われているとおりです。[19] およそ百歳となって、自分の体がすでに死んだも同然であり、サラの胎も死んでいることを知りながらも、その信仰は弱まりませんでした。」

注目する点としてアブラハムが信じたことは、

1. 神は「死者を生かす方」であること

2. 神は「無から有を呼び出される」ということ、です。

神が「私はあなたを多くの国民の父とした」と言われたとき、アブラハムは知っていました。
子どもを持つには自分は年を取りすぎ、体がすでに死んだも同然だった。およそ百歳でした。
妻のサラの胎も死んでいたこと。90歳の不妊の老女でした。

しかし、**20～21節**では次のように言っています。
「[20]**彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことをせず、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。**[21]**神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと確信していたのです。**」

つまり、アブラハムは、人間的観点で言えば、赤ん坊を授かるには年を取りすぎていたのです。身体的には不可能でした。

しかし、また彼は神が「死者を生かし」「無から有を呼び出される」方であるとわかっていました。神は創造主です。これは人が認めることに失敗してきたことです。

最初インパクトビル・プロジェクトを始めて、5億円が必要だった時、もし自分の妻や子どもたちが、「武/お父さん、心配しないで。私がその金額を教会に捧げるから」と言ったら、私はただ笑って「ありがとう」と言うでしょう。しかし、それで気が楽になるでしょうか。いいえ、私は彼らにそのお金がないことを知っています。

しかし、もし慈善団体や教会への寄付で有名な億万長者が「武先生、来月全額を教会に寄付します」と言ってきたら、私は同じように笑って「ありがとうございます」と言うでしょう。しかし、その言葉を疑わないでしょう。その人なら簡単にできると知っているからです。

実際には、さらに良いことに、私たちにはすべてを持ち、備えることのできる神がいます。

アブラハムは、夫婦ともに子を産むには年を取りすぎていたことを分かっていました。しかしまた、彼に約束された方は「創造の神」ということもわかっていました。

何も存在しなかった時、神は「光あれ」と言われ、無から光が現れました。もし科学を学んでいれば、宇宙に存在する最小のものは「素粒子」と呼ばれることを知るでしょう。それはわずか17種類しかありません。物理的に存在するすべてのものはこの粒子で成り立っています。光は17種類のうちの1つ、「光子」から作られています。従って、神が「光あれ」と言われた時、今日であれば「光子あれ」とか「素粒子あれ」と言われ、すると素粒子があった、となるかもしれません。

神はこれらの粒子を結びつけ、その力を持って原子、水、岩、星、植物、動物、人間を創造し、彼らに命を与えられました。神は無から有を、命のないところから命を生み出されます。

神が「あなたがたの死んだ体から新しい命を作り出す」と言われたとき、アブラハムは気づきました。これはたまたま出会った誰かが話しているのではないと。これは創造主がはなしているのだと。そして彼は信じました。これが信仰です。

神が語られるとき、私たちが聞くのは創造主の言葉であり、それは100%頼ることができると認めることです。たとえそれが全くわけのわからないことであっても、創造主だから信じるのです。

これは神が探し、形作っている人々の姿です：
イスラエルの民をエジプトから出し、荒野に導かれたとき、神は彼らに天からのパン、マナで40年生かしました。民はその日に必要な分だけを取り、神を信じるように伝えられました。それ以上は神がまた備えることです。翌日と、またその翌日、さらにまたその翌日と……。

最初、一部の人は神を信頼せず、その日に必要な分以上を取りました。しかし、その度に、余分なマナは痛んで、ウジがわきました。

なぜ神はそうされたのでしょうか。モーセは**申命記8:3**でこう説明しています。「[3]**…人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きるということを、あなたに知らせるためであった。**」神の目的は、ただ民を従わせることではなく、民に神を認め、御言葉を信じるよう教えることでした。

だから、イエスが40日間の荒れ野で試みにあった時、注意深く読むと、この三つの試みはすべて、イエスが神を創造主として認めるかどうかを確かめるためだとわかります。

アダムとエバがエデンの園で禁じられた実を食べた時でさえ、本当の問題は二人が神に背いたことではなく、神を認めず、その言葉を信じなかったことにありました。

これこそ、信仰とは何かということです：
アブラハムは子どもを持つことが出来ないとわかっていても、創造主である神が子を与えると言われたから、信じました。

イスラエルの民は、マナが毎日空から降ってくる理由がわからなくとも、創造主である神がそうなると言われ、実際そうなりました。

私たちに経済的な困難があるとき、イエスが「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。」と言われるので、私たちはお金を追い求めるのではなく、神が言うことを行い、神が備えると言ったことに目を向けるべきです。

私たちに家族の問題、結婚の問題、人間関係の問題があるとき、神が言われたように、私たちは愛し、従い、赦し、祈るため、たとえ気が進まなくても、御言葉を信じ主が介入することに目を向けて信じるのです。

仕事、学校、家庭、教会で困難なことがあるとき、神が創造主であることを認め、神と御言葉を信じます。私たちは「神を賛美する」のです。

私たちは神を創造主だと認め、神が私たちを気にかけていることを信じることで「神を賛美する」のです。人間の目に不可能なことではなく、神と御言葉を信じるのです。

（3） 私たちも同じ

22～25節 「[22] だからまた、『それが彼の義と認められた』のです。[23] しかし、『それが彼の義と認められた』と書いてあるのは、アブラハムのためだけではなく、[24] 私たちのためでもあります。私たちの主イエスを死者の中から復活させた方を信じる私たちも、義と認められるのです。[25] イエスは、私たちの過ちのために死に渡され、私たちが義とされるために復活させられたからです。」

アブラハムの信仰は、私たちすべての手本となっているのです。

ですから、私たちも次のことを認めると―
私たちは罪を犯した。常に神を創造主と認め、神と御言葉を信じているわけではないから。
主を創造の神だと認めるようになる。
主がイエスを遣わし、私たちの罪のために死なせ、イエスを蘇らせ、主の義を私たちに与えてくださったことを信じる。
そうすると、私たちは祝福されます。そして、赦され、神の民として義とされるのです。

あなたは神を創造主として認め、御言葉を信じ、新しい命を与える神の贈り物としてのイエスを受け入れ、創造の神と認めて神を賛美しますか。もしまだであれば、今日そうしてください。神を賛美しましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは: https://gotbc.org/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
https://gotbc.org/tbclife

スモールグループ参加申込み

https://gotbc.org/sgsu

オンライン献金

https://jp.tokyobaptist.org/献金

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg3326jp

TBC カレンダー
(TBC のスケジュールが確認できます)
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 6 日(日)1:00 pm ～ 5:00 pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
9 月 20(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

全クラス申し込み:
gotbc.org/classes

急募！

奉仕者募集中！

1.日本語訳レイアウト&印刷

(女性 2 名募集)

英語のスキルは必要ありません。

・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル:MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

2.礼拝メッセージ翻訳

・1 ケ月半～2ケ月に 1 度、自宅でできます。スケジュールは都合に合わせて選べます。
英語と日本語が出来る方

連絡先:hiromik@tokyobaptist.org